

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- ◆生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校
- ◆生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校
  - ・生徒の一人ひとりの卒業後を見すえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に還元する。
  - ・社会の変化や企業ニーズ等をふまえつつ、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。
  - ・社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。

## 2 中期的目標

- 1 積極的な校外への取組みや地域、関係機関との連携・交流の充実
  - (キャッチフレーズ) 「Circle of TAMAGAWA」
  - (1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する
  - (2) 高等支援学校や高校及び共生推進教室設置校との連携や交流機会を拡大する
  - (3) 地域に根ざした学校教育活動を充実し、地域に愛される学校をめざす
- 2 より適切で効果的なマッチングを基本とした多様な進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実
  - (キャッチフレーズ) 「GIGA×キャリア教育＝未来予想図」
  - (1) 生徒一人ひとりのニーズ及び新たな職域開拓による就労率の維持、向上を図るとともに、離職率5%以内を目標とし、関係機関との連携による卒業生の就労継続支援を充実する
  - (2) 生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実を図る
    - ア 「主体的・対話的な深い学び」を追求し、ICTや1人1台端末を活用した授業づくりに取り組む
    - イ 大阪大学と連携した“キャンパスロードの整備”を行うことにより、職業学科が社会とより繋がる取組みを進める  
学校経営推進費事業（R6）『竹でつながる縁は知的障がい者雇用の促進！？～職業学科を中心としたSDGsの取組み～』  
3年め（R8）の評価指標
      - ①大阪大学での職場実習を年間4人以上実施、就労者2人
      - ②大阪大学豊中キャンパスの地域の方々への草花・野菜・竹製品・プリンター等の販売を実施
      - ③学校教育自己診断（生徒）の「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある」の肯定率95%（R6：84%）
      - ④学校教育自己診断（生徒）の「授業や行事で近くの学校や近所の人と交流することがある」の肯定率70%（R6：68%）
      - ⑤学校教育自己診断（教職員）の「教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている」の肯定率92%（R6：89%）
    - ウ 生徒会活動など生徒主体の活動の充実に取り組む
  - (3) キャリア発達支援の観点を重視し、生徒の卒業後を見すえ、自立活動をはじめとする個別最適な指導・支援体制を構築する
- 3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進
  - (キャッチフレーズ) 「Team TAMAGAWA 8.0」
  - (1) 関係機関との連携のさらなる充実、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する
  - (2) 新たな教育カリキュラムをはじめとした、創立20周年（令和7年度）の取組みを着実に進める
  - (3) 校務の効率化を図り、業務負担の不公平感の是正に向けたルール作成や組織づくりを推進する

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回答率は生徒、保護者、教職員ともに前年度と同等を維持できた。 生徒 98% (Opt±)、保護者 94% (Opt±)、教員 100% (Opt±) 日ごろから、学校の取組みに関心を持っていただけるよう、情報発信の工夫を行うことが、より回答率を高めることにつながると考えている。 また、今回の学校教育自己診断アンケートは、以下の2点について見直しを行い、より正確な評価に繋がるようにした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 質問項目（新規質問項目の追加及び重複感のある項目の削除等）</li> <li>② 質問方法（回答者が、回答しやすいように並べ替え、わかりやすい表現に変更）</li> </ol> <p>回答傾向としては、全体的には肯定的回答（「よくあてはまる」、「ややあてはまる」）となっているが、「よくあてはまる」の回答数が生徒、保護者、教員ともに減少。一方で「全くあてはまらない」の回答が、生徒、保護者、教員ともに増加している。これらについて、十分な分析による改善をめざしたいところである。 以下、対象者ごとに、肯定的回答が5pt以上増加または減少のあった項目の分析を示す。</p> <p>【本校 生徒】 ○「自分の考えをまとめたり、発表できるときがたくさんある」 75% (9pt\) ・本校の授業の中で、グループワークの取組みが多くを占めており、「自分の考えをまとめる」という部分は達成しているが、「発表ができる」となると、発表者は必ずしも全員ではなく、時間にも限りがある。このことが、結果に反映されたのではないかと思われる。発表時間の確保とともに、なるべく均等に発表機会を持つことができる工夫が必要である。 ○「担任の先生以外にも、保健室や相談室で気軽に相談できる先生がいる」 77% (5pt\)</p>	<p>第1回 令和7年5月13日（火）実施 ＜主な案件＞ ・令和6年度学校評価及び令和7年度学校経営計画の説明 ・進路指導、生徒指導の状況について など</p> <p>＜主な意見＞（学校経営計画に関するもの） ・リーディングスタッフがアドバイザーとして高等学校通級指導教室担当者の会議に参加するのは、お互いの学びになるので今後の活躍に期待したい。 [1 (2)] ・自転車のルールなど法律が厳しくなっていく。自分事として捉えると理解しやすいので生徒同士で考えていく時間を設定してほしい。下校時に歩道を広がって歩く生徒がまだいる。近隣の人はいつも見ているので、教員が見回りしなくても交通マナーを守るよう自覚を促す指導をしてほしい。 [2 (3)ウ] ・学校教育自己診断の質問項目を見直す際には、AIに「小学生向けに言い換えて」と聞くなどして、分かりやすい言葉に置き換えるなど設問の工夫をしてみてもどうか。 [1 (3)ウ] ・たまがわに入学するのが難しいという噂をどう払拭するか。大阪市職業指導センターも倍率が4倍の時代があったので、現在は定員割れとは知られておらず敬遠される。現時点の情報をどう発信するかを考えてほしい。 [1 (3)イ]</p> <p>第2回 令和7年12月16日（火）実施 ＜主な案件＞ ・令和7年度学校経営計画の進捗状況について ・令和7年度学校教育自己診断、授業アンケートの結果について ・令和8年度学校経営計画の中期的目標について ・進路指導、生徒指導の状況について など</p>

・今年度から3人担任制となり、教室における担任の相談体制がより充実できた可能性がある。  
 ○「授業や行事（たまがわフェスティバル等）で近くの学校や地域の人と交流することがある」76%（8pt/）  
 ・『創立20周年記念祭』として、たまがわフェスティバルを体育の部・文化の部ともに、入場制限を設けなかったことや、生徒会プロジェクトによる取組みの周知（生徒自身の地域との交流体験等を、他の生徒たちに発信する機会の増加）により、外部との交流をより意識できたのではないかと考える。

#### 【本校 保護者】

○「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」85%（7pt/）  
 ・生徒対象のアンケートでは昨年度と変わらず、今年度も83%と増減はなかったが、現3年生は昨年度から8ptダウン。現2年生は2ptのダウンとなっている。保護者からは、子どもの様子や会話から、この回答をいただいていると考えられるため、まずは生徒たちの思いを直接聞く機会の設定が必要だと考える。  
 ○「学校は、子どもが他の学校の子ともたちと交流する機会を設けている」85%（5pt/）  
 ・『創立20周年記念祭』として、たまがわフェスティバルを体育の部・文化の部ともに、入場制限を設けなかったことや、創立20周年の取組みを生徒たちが自ら発信（発表）したことが、取組みの周知につながったと考えている。

#### 【教職員】

○「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」91%（6pt/）  
 ・昨年度は評価が下がった項目であったが、今年度は増加。学校経営推進費事業（大阪大学との連携）や創立20周年記念祭たまがわフェスティバル等の取組みに向けた、教職員による企画・検討の時間が増えたことが考えられる。学校としては、教職員の新しい取組みが生まれるきっかけを作り続け、生徒たちに還元していきたい。  
 ○「ライフワークバランスはとれている」82%（5pt/）  
 ・2年連続で5ptの増加。勤務時間の超過が年々減少している。一斉定時退庁日の取組みも一層意識が高まった。  
 ○「学習形態の工夫・改善・評価の在り方について話し合う機会がある」79%（5pt/）…2年連続5pt減  
 ○「教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている」84%（5pt/）…昨年度は増加していた項目  
 ・この2年間は、学校経営推進費事業や創立20周年記念事業として、新しい取組み（教科・職業学科の横断的な学び、地域との交流等）やシラバスの見直し等に注力してきた。そのため、これら2項目にあるような内容の検討時間が十分とれなかった可能性がある。  
 ○「校内研修等を通して、初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」84%（5pt/）  
 ・上記2項目と同様に、学校経営推進費事業や創立20周年記念事業にかなりの時間を割いていたことの影響もあると思われる。また、昨今の働き方改革、ハラスメント等、教職員の時間の使い方や意識に変化が起きており、同僚としての関わり方、校内研修、研究協議、授業見学等の方法の見直しも必要である。

<主な意見>（学校経営計画に関するもの）

○学校教育自己診断について

・アンケートは結果をどう捉えてつなげていくかが大切。改善していくために追加のアンケートを行ったり質問項目を分けたりと検討を。

○令和7年度学校経営計画の進捗状況について

・スマートフォンの使用に関して保護者の意見はどうか。使いこなさないといけないのも事実であるが、保護者にも意見を問うてはどうか。

⇒ 保護者には昨年度末にPTA学級委員会にて生徒で使用に関するルール作りをすすめる方向性は伝えていた。保護者の意見として「電源を切ったら位置情報がオフになるので不安」という意見があった。[2(2)ウ]

・中学校でもスマートフォンの使用に関して生徒向け、保護者向けに講習がある。[2(2)ウ]

・高等学校への支援に関して、センター的機能を発揮してほしい。困り感のある生徒の進路実現のために、たまがわの就労へのノウハウを高等支援は伝えるべきではないか。[1(2)ウ]

・過去に、衛生意識に課題のある生徒が衛生管理を求められる会社に就職し、すぐに退職した。学校はマッチングに関してより丁寧に行ってもらいたい。[2(1)ア、イ]

・3人担任制できめ細やかに対応ができるので、適切なマッチングを行い、働き続けられる生徒に。またこのノウハウを高等学校へ発信してもらいたい。[2(1)ア、1(2)ウ]

○令和8年度学校経営計画の中期的目標について [3(2)(3)]

・生徒の今の状態をどう捉えるのか、習熟度別学習もよいかと思う。

・働き方改革に関して、残業の件は民間も同じ。3年間でやる思いで行わないと4年めによい結果を迎えられないかも。

第3回 令和8年3月10日（火）実施

<主な案件>

・令和7年度学校経営計画の評価及び令和8年度学校経営計画の説明 ⇒ 承認  
 ・進路指導、生徒指導の状況（特にスマートフォンの使い方）について報告

<主な意見>（学校経営計画に関するもの）

・生徒の多様化に伴い、基礎学力を伸ばすことがポイントのようであるが、基礎学力を伸ばすことの大変さを実感し、基礎が不十分なまま高等支援学校に進学したことを反省している。ただ、中学校では自信もなく、話せる仲間もいなかったが、たまがわでは友達が増え、がんばる気持ちや自信を持てるようになったことは喜ばしい。

・中学校では周りに助けてもらうことが多かったが、たまがわでの3年間で自ら発信し、コミュニケーションを取る力が身についた。今では職場で外国籍の同僚とも自発的にやり取りできるようになった。

・生徒が主体的にスマートフォン使用のルール作りに取り組んだ点を評価したい。こうした経験は判断力を育てるうえでも重要である。

・スマートフォンを使用して、撮影する時、決められた手順にそって許可と同意を取ることになっているが、同意を確認する方法を、具体的に決めておく必要があると思う。自分たちで作ったルールは、自分たちで守る。守れなかったときは、どう改善するかを話し合って軌道修正するという方法を考えているようで素晴らしい。

・撮影の同意は必ず取り、撮影の許可が必要。学校で撮った写真や動画を家でアップすることもダメと周知する。主体的な学びは重視するが、教員は連携し、覚悟をもってトラブル対応にあたる必要がある。ルールの詳細は今後も継続して周知していく。

・生徒会メンバーの卒業後にルールだけが残り、形骸化することは避けたい。そのために、どう継承していくか、また全校生徒へどのように伝え、学校全体で守る雰囲気を作るかが重要である。

・卒業生による進路講話や出前授業時に卒業生による実演等積極的に企業を活用してほしい。卒業生にとってもよい経験になるので、ぜひお声掛けをお願いします。

・残業が月45時間では、民間企業なら産業医の対応が必要なレベル。もっと踏み込んだ対策が必要ではないでしょうか。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 積極的な校外への取組みや地域関係機関との連携交流の充実	(1) 既存の枠組みの関係をさらに深め、新しい分野や事業先との連携を開拓する	(1) ア 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携 イ 福祉関係機関を利用した生徒支援の取組みの充実	(1) ア・東大阪市（J-WAT）、八尾・柏原をはじめとした、障がい者就業・生活支援センターと在校生、卒業生などの情報交換会を2回以上実施する【新規】 ・外部講師として就業・生活支援センターの職員を招き、教職員向けの研修会を1回実施する【新規】 イ ヤングケアラーや不登校など学校生活に対して困難を抱える生徒支援を行うとともに、教員へのコンサルテーションの件数を増やす【新規】[教員相談件数 110件]	(1) ア・3年生徒管轄の障がい者就業・生活支援センターと全体会にて情報交換会を本校で11月に1回。3年生徒管轄の各センターへ個別訪問し情報交換会を1回。合計2回実施した。(○) ・就労選択事業について(アセスメント実習)等をJ-WATの方を講師として、教職員向けに学習会を1回実施した。(○) イ・不登校に対する支援が多くを占め、同じケースの相談が増加。また、3年生の進路にかかわる家庭調整や機関連携が必要なケースが増えている。 相談件数 165件 (◎)
	(2) 高等支援学校や高等学校及び共生推進教室設置校との連携や交流機会を拡大する	(2) ア 共生推進教室設置校と、生徒間、教職員間の交流の機会を充実する イ 共生推進教室の生徒の本校での活動の様子を保護者にわかりやすく伝えられるよう工夫する ウ 高等支援学校のセンター的機能を発揮し、地域支援整備事業の充実を図る	(2) ア・定期的な昼食交流の他に、キャリア教育や、生徒主体で交流ができるような取組みを行う(前後期に1回ずつ)【新規】 ・設置校の教員に対しても、校内学習会、研修、授業見学を案内する【新規】 イ・「共生推進通信(仮称)」を年2回発行する【新規】 ウ・高等学校との連携を進めるために、サポート校(松原高校)と地域の支援学校とも連携を語り、高等学校訪問を単発で終わらせるのではなく、継続して連携を行う【新規】 ・外部公開研修の参加者増を図れるように広報の方法を工夫し、機会を増やす(各研修10名程度)【新規】	(2) ア・5月27日、1月13日に学年ごとにスポーツ・レク大会を実施。また、生徒会主催で学年ごとに昼食交流を実施。(○) ・学習会、研修会等、案内した。(○) イ・夏休み前に1部、3月に1部発行済み。(○) ウ・高校訪問は研修・支援も含め、延べ13校。関係のできた高校へは積極的に研修案内等を行い、その機会に情報交換を行っている。また、このことが新規の「職業学科を設置する高等支援学校見学会」(12/9)の実施につながった。(○) ・公開研修の参加者は第1回3人、第2回4人。第3回5人の参加があった。(△)
	(3) 地域に根ざした学校教育活動を充実し、地域に愛される学校をめざす	(3) ア 生徒と関係機関や地域とのかかわりを増やす イ 本校入学を検討する中学生が、なりたい自分をより具体的に描くことができるように、本校の魅力を今まで以上に発信する。 ウ 学校教育に対するニーズ等に対応し、学校教育活動の改善のための方法を明らかにする	(3) ア 地域周辺の企業や施設に生徒がまわり、新たな地域交流のきっかけ作りとなる広報活動を継続する(5社)[4社] イ・中学生に本校の魅力を発信するための機会(体育大会見学、部活動体験等)を検討して増やす【新規】 ・中学校教員向けに本校の魅力を発信するための機会を検討して実施する【新規】 ウ・学校教育自己診断の回答者がよりわかりやすいように、設問内容等を見直す(共生推進教室も含む)【新規】	(3) ア・自動車販売店、携帯電話販売店、自転車販売店、家電量販店等、5社に広報活動を行った。11月に3店舗での社内清掃の取組みを実施。(○) イ・体育大会は今年度から一般公開としたことで、複数の中学校関係者の見学があった。学校見学会時に実施した部活動体験は計69組の参加があった。(○) ・教員に対しても体育大会・部活動を見学する機を設定したが、更なる発信の機会の検討が必要だと思われる。(△) ウ・設問内容(わかりやすい文言に整理、項目の追加・削除)と配列の見直しを行い、11月に実施した。加えて、共生推進教室についても検討を行い、本校とは形式を変えたアンケートを行った。(○)
2 適切なマッチングを基本とした多様な進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見守った教育活動の充実	(1) 就職率の維持及び定着率の向上	(1) ア 生徒一人ひとりの進路希望や適性を把握し、多種・多様な進路希望に対応できるよう各機関と連携し、幅広く求人情報を収集する イ 卒業後のアフターフォロー体制を改善・充実する	(1) ア・外部機関、地域企業などによる出前授業等を通じて、生徒一人ひとりの就労意識や就労技能を向上させ、長期にわたり就労できる力を身につける(新規を含め、出前授業年15件以上を維持)【新規】[15件] ・多様な生徒の実態をふまえ、多様な職種の新規の就労先、就労移行支援事業所等を開拓する(新規職場実習受入事業所60社)【新規】[55社] イ・障がい者就業・生活支援センターと生徒の実態等に応じて、卒業前や早期から職場訪問を計画する(1年後の離職率の割合が5%以内)[8.6%] ・障がい者就業・生活支援センター、ハローワーク、卒業生などを外部講師として招き、職場の定着、離職についての出前授業を1回以上実施する【新規】	(1) ア・就労意識や就労技能を向上させ、長期にわたり就労できる力を身につける出前授業を22件実施。そのうち4件が新規企業。(◎) ・94社を開拓。(生徒の多様化に一定対応可能な企業63社 福祉事業所31社) (◎) イ・17期生の訪問(アフターフォロー)は完了。2、3回めの実施者もあり。離職者5人(8.6%) (△) ・障がい者就業・生活支援センターより、「働き続けるために」をテーマに1回。ハローワークより、「実習の心構え」について2回。食品製造の特例子会社、ビルメンテナンス会社より、出前授業を2回実施。合計5回実施。(◎)

<p>2 適切なマッチングを基本とした多様な進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実</p>	<p>(2) 生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実</p>	<p>(2) ア 「主体的・対話的な深い学び」を追求し、ICT や1人1台端末を活用した授業づくりに取り組む イ 大阪大学と連携した“キャンパスロードの整備”を行うことにより、職業学科が社会とより繋がる取組みを進める  学校経営推進費事業（R6～8） 『竹でつながる縁は知的障がい者雇用の促進！？～職業学科を中心としたSDGsの取組み～』  ウ 生徒会活動など生徒主体の活動の充実に取り組む</p>	<p>(2) ア 長期休暇中に1人1台端末を活用する課題を出す教科の割合が5割以上となることをめざす [新規] イ・園芸分野が現地に向かいキャンパスロードで花壇整備を1回以上行う [0回]  ・大阪大学での職場実習を3人以上[4人]実施、就労1人[3人]  ・創立20周年記念たまがわフェスティバル文化の部において、竹製品の販売、取組み内容の発表を行う [新規]  ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」の肯定率92% [84%] ・学校教育自己診断(生徒)「授業や行事で近くの学校や近所の人と交流することがある」の肯定率69% [68%] ・学校教育自己診断(教職員)「教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている」の肯定率90% [89%] ウ・令和6年度に各委員会が出た意見を生徒総会で発表し、決定したうえで、実現に向けて活動する [新規]  ・学校内でのスマートフォン使用のルールについて、生徒会を中心に生徒意見を集約し、適切な使用ルールを作る [新規]</p>	<p>(2) ア・夏休みは18教科中10教科で課題を出した(56%)。冬休みは課題を出す教科が少ない。(○) イ・2/10(火)2年福祉・園芸科で現地に向かい、大阪大学のキャンパスロードで花壇整備を行った。(○) ・職場実習延べ3人…2年生1人(11月)、3年生2人(6・9月)。3年生1人就労。(○) ・消臭グッズ(流通サービス科)や門松、カトラリー、灯籠、竹スピーカー、靴ベラ(ものづくり科)をたまフェス、農業祭で販売。また、創立20周年記念祭たまがわフェスティバル文化の部において、「20周年の取組み」をスライドや動画を使い、生徒が発表を行った。(○) ・(生徒)肯定率75%(9pt\)(△)設問に対する理解が不十分な可能性も考えられる。 ・(生徒)肯定率76%(8pt/)(◎)  ・(教職員)肯定率84%(5pt\)(△)担当部署から具体的な指示を出す等の検討が必要と思われる。 ウ・各委員会で取組みを生徒総会・集会で発表、創立20周年記念祭たまがわフェスティバル文化の部で具体的な取組内容の報告を行った。学級委員会「たまフェスオリジナルTシャツ」を配付し、たまがわフェスティバルにて全校生徒で着用。放送委員会「リモートインタビュー」を実施。図書掲示委員会「校舎内に本の紹介をポスターやクイズにして掲示」。保健衛生委員会「20周年特別クリアランス運動」を実施。体育委員会「全学年でのスポーツレク大会」を2月13日に実施。(○) ・生徒会が中心となって作成した原案について、生徒向けアンケートを2回実施。使用時間帯、使用場所、用途などのルールをまとめることができています。(○)</p>
	<p>(3) キャリア発達支援の観点重視し、自立活動をはじめとする個別最適な指導・支援体制を構築</p>	<p>(3) ア アセスメントの観点を重視した自立活動の推進と充実  イ 生徒が自己理解に基づき、行動を判断し、実行する力「自己指導力」の獲得のための環境・体制づくりを行う  ウ 安全・安心な教育環境の確保及び安全教育の充実</p>	<p>(3) ア・教員がコグトレオンライン manager(管理用ソフト)を活用するための校内学習会を年に2回行い、生徒へのフィードバックをより確実なものにする [新規] ・12月末時点でのコグトレオンラインの全問正解率 3年生50%以上、2年生85%以上、1年生50%以上をめざす [3年生45%、2年生82%] イ・いじめ初期対応について、より迅速でより適切な対応がとれるよう外部講師を招いた研修会を年1回行う [新規] ・「生徒心得」の「安全で安心な学校生活を送るための約束」について、生徒が主体的に今すべきことを考え適切な行動選択がとれるような支援の共通理解を深める教員向けの説明会を1回行う [新規] ウ・自転車交通マナー向上週間を設け、通学時の事故数を減少させる [10件] ・自転車通学におけるヘルメット着用者を40%以上にする [6月現在9.4%]</p>	<p>(3) ア・5月と7月に校内学習会を行った。(○)  ・レベル調整は適宜行ったが、全問正解率3年生45%、2年生85%、1年生67%。(△) イ・東大阪市教育委員会人権教育室から講師を招聘し、「安心感と成長をもたらす集団づくりをすすめるために」と題して、いじめが生じづらい集団づくり等について研修を1回実施。(○) ・4月に職員向けに周知(説明会)。生徒集会等で、生徒・教員も含め共通理解を深める機会を2回設けた。(長期休業前)(○) ウ・通学時の自転車事故は軽微なものも含め6件(○) ・ヘルメット着用率54.0%(◎)</p>

3 社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ取組みの推進	(1) 教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成	(1) ア 既存の外部人材との連携をさらに深める取り組みの検討  イ 支援教育の専門性、学習指導要領の内容をふまえた計画的・効果的な研修の実施  ウ 本校の食物アレルギー対応マニュアルの共通理解	(1) ア・臨床心理士、作業療法士からの助言に基づいて実施した支援・指導による生徒の変化をフィードバックし、次の段階への支援・指導につながる仕組みを構築する [新規]  イ・外部講師の研修会を年2回以上実施し、障がい軽度といわれる生徒の支援の在り方に関する研修内容の充実を図る [新規]  ・教員用専門図書を引き続き、整備・充実し、延べ年間 200 冊以上の閲覧をめざす [1月現在 91 冊] ウ・「アレルギー対応マニュアル」(R6改定)の説明会を1回実施して、全教職員の共通理解を図り、対応を徹底する [新規]  ・年間アレルギー事故0を継続 [0]	(1) ア・担任は相談内容を保健主事と共有。担任から変化や進展について入力シートを用い、保健主事に報告。保健主事から臨床心理士・作業療法士に共有、助言をもらう。その情報を学年会の生徒情報共有でフィードバックする仕組みを構築した。(○) イ・8/21、10/7、10/8 大学教授を招聘し、特別支援教育、効果的な生徒支援に重点をおいた3回の研修会を実施した。(○)  ・225 冊。(○) ウ・4月にアレルギー対応について共通理解を図る説明会を1回実施。また、「薬の取扱い」についても、職員会議を通じ全体へ周知した。(○) ・ゼロ。(○)
	(2) 創立 20 周年(令和7年度)の取組みを着実に進める	(2) ア 現在の課題を洗い出し、新しい教育カリキュラムの検討を行う  イ 20 周年の取組みの確実な実施	(2) ア・職業学科と一般教科における横断的な学びができるよう検討を行う [新規]  ・朝食摂取の習慣化をめざすため、朝の自立活動時の朝食チェックを活用し、「食育」を行う [新規]  イ 20 周年記念事業を確実に実施する[新規] ・たまがわフェスティバルを 20 周年記念祭として位置付け、活動時間の延長や各取組みの報告を行う [新規]  ・20 周年記念誌の発行、記念品の配布[新規] ・寄贈品の紹介、制服、竹製品お披露目[新規]	(2) ア・ものづくり科と美術科・音楽科や、流通サービス科と数学科・美術科等、横断的な取組みができた。継続した取組みに関しては各教科・分野から案を集約した。今後、学習支援部を中心に検討予定。(○) ・朝食チェックの結果の統計を出し、ポスターで改善点をあげ、食育について呼びかけを行った。また、朝食チェックの統計から、朝食摂取効果や必須栄養素にふれた「保健だより」配付と委員会(生徒)からの呼びかけを行い、習慣化を促す「食育」を行う。2月に1回実施。(○) イ ・たまがわフェスティバルを『創立 20 周年記念祭』とし、体育の部では一般公開を取り入れ、文化の部では、2日開催とし、2日めの販売時間を1時間延長した。20 周年記念事業の報告をたまがわフェスティバル文化の部1日めに生徒会・代表生徒中心に行った。(◎) ・12月に記念品を配布。記念誌を3月に発行。(○) ・「20 周年の取組みについて」と題して、生徒会の司会で、代表生徒が取組紹介の発表を行った。寄贈品はスライドで紹介。制服はマネキン、ミニチュアを展示。竹製品は動画に加え、実際に職業学科での販売でお披露目できた。生徒主体の活動として取り組むことができた。(◎)
	(3) 校務の効率化を図り、業務負担の不公平感の是正に向けたルール作成や組織づくりを推進	(3) 全校一斉定時退庁日の更なる取組みの推進や業務の精選を議論し、時間外勤務の減少に繋げる	(3) ・一斉定時退庁日を意識して業務を行い、勤務時間終了後 30 分以内の退勤 85%以上をめざす [80%]	(3) ・約 80%。(△)